



AAJ-033
2012年12月14日

エアアジアグループ
エアバス A320 を 100 機 追加発注

アジアでのさらなる成長に向け、
2021年デリバリー予定分まで累計 475 機を発注



エアアジア（グループ CEO: トニー・フェルナンデス、所在地: マレーシア）は、アジアでのさらなる成長に向けて、エアバス A320 を 100 機追加発注いたしました。現在、エアバス社（CEO: ファブリス・ブレジエ、所在地: フランス）に発注している機材は累計 475 機に上り、これらは新規路線への就航や増便など今後の成長戦略の基礎となります。

発注した 100 機のうち、36 機は既存のエアバス A320、残り 64 機は新型の A320neo で、これら機材の導入により、エアアジアグループが拠点を置くマレーシア・タイ・インドネシア・日本・フィリピンのエアアジア各社の成長の加速を見込んでいます。エアアジアグループ CEO のトニー・フェルナンデスとエアバス CEO のファブリス・ブレジエ氏による契約署名は、英国・プロートンにあるエアバス社の翼製造施設を訪れていた英国首相デービッド・キャメロン氏の立ち会いのもとでなされました。

現在発注している 475 機の内訳は、新型のエアバス A320neo が 264 機、既存のエアバス A320 が 211 機です。うち 100 機以上がすでに納入されており、残りの機材は 2021 年までに順次納入されます。

エアアジアグループ CEO のトニー・フェルナンデスは、契約時に次のようにコメントをしています。

「エアアジアは、マレーシア・タイ・インドネシアの3ヶ国では既に大きな存在感を示しており、新規市場であるフィリピンと日本でも成長に向けた大きな手応えを感じています。機材の追加発注は、新規路線の就航や増便によるネットワークの拡大戦略の一部であり、特にマレーシアやタイでは強いリーダーシップを維持、発揮する地盤となるでしょう。

この10年間、エアアジアはマレーシアで幾多のチャレンジに挑み、利益や搭乗率、旅客収入などを伸ばしてきましたが、その一方で多くの競合他社の参入と撤退も見てきました。成功の鍵は、コスト削減に対する徹底した姿勢とビジネスモデルにあります。この経営姿勢により、マレーシアでのオペレーションコストを最小限に抑え、一方で搭乗率の上昇や運賃以外の付帯サービス料金の増収、健全なバランスシートによる収入の最大化を図っています。その結果として、エアアジアは高い収益性を維持しているのです。

一方、旅客数という観点に立つと、タイ・エアアジアの成長速度は著しく、マレーシアに匹敵する高い収益性を上げるようになってきています。増機によって、タイ・エアアジアは国内線だけでなく、中国やインドなどの巨大市場への国際線就航に向けて、勢いを加速させるでしょう。バンコクでのオペレーション機能をドンムアン空港のLCCターミナルに移したことに伴い、私たちは短期間での成長を見込んでいます。これは、成長を加速させるため、そして多くの主要空港で生じている混雑という問題から抜け出すために第二の拠点を確保するという私たちのビジョンにも結びついています。

インドネシア・エアアジアは、既に国内でも市民権を得ていますが、増機は成長の余地を残す国内市場でさらなる推進力となることでしょう。また、ASEAN 諸国にネットワークを広げるエアラインとしてのさらなる成功を目指し、今後の機材増加がインドネシア国内におけるエアアジアブランドの確立の一助となると考えています。収益の源である2億3,000万人超の人口こそが、インドネシア・エアアジアの成長の支えであると信じています。

エアアジアグループの中でも、日本とフィリピンは就航から日が浅く、発展の入口に立ったばかりです。収益性の向上とコスト削減の徹底、そして各市場におけるNo.1ブランドとしての地位確立を今後とも目指していきます。」

エアバス CEO のファブリス・ブレジエ氏は、次のようにコメントしています。

「エアアジアは近年の航空ビジネスにおいて最も素晴らしい足跡を刻んだ航空会社の一つです。そのエアアジアが、エアバス A320 の利用を続けるということこそが、エアバス A320 という機材の信頼性、効率性、経済性の証なのです」。

この度新たに購入したエアバス A320 は 2016 年までに納入される予定で、計画としては 2013 年に 2 機、2014 年に 4 機、2015 年に 22 機、そして 2016 年に残りの 8 機が納入されます。加えて、64 機のエアバス A320neo は 2017 年初頭に 8 機が納入され、2018 年に 14 機、2019 年に 15 機、2020 年に 14 機、そして 2021 年に 13 機が届く予定です。なお、昨年発注した 200 機のエアバス A320neo は、2016 年から 2026 年までに納入が完了します。



機材購入に係る合意には、エアアジアグループがさらにエアバス A320 と A321 をそれぞれ 50 機ずつ購入できるオプションが組み込まれています。

トニー・フェルナンデスは次のようにコメントを続けます。

「私たちは、ヨーロッパやアメリカ南西の空を席卷するライオンエアやイージージェットの優れた点を見てきています。LCC の草分けとしての優位性、徹底したコスト削減姿勢、そしてビジネスモデルは彼らを市場のリーダーへと押し上げました。エアアジアはその 3 つの特徴を備え、32 億人のアジア市場に挑み続けていきたいと思っています。今回の機材調達は ASEAN 諸国、中国、インド、北アジアなどでの展開を促進することでしょう。」

これを受け、エアアジア・ジャパン株式会社 代表取締役社長 岩片和行は下記の通り、コメントしています。

「日本でコストを抑えることは容易いことではありません。しかし、成長は私たちにとって達成すべき明確な目標です。今回の機材発注は、日本においてもより多くのお客様にご利用いただくための礎になると信じています。北アジアにおけるエアアジアの存在感をさらに大きく推進し、またお客様を魅力的な都市へといざなう一助となるでしょう。」

エアアジア・ジャパン株式会社 (AirAsia Japan Co.,Ltd)

エアアジア・ジャパン株式会社は、全日本空輸株式会社（本社東京）とエアアジア（本社マレーシア）の合併会社として、2011 年 8 月に設立された成田国際空港を拠点とする航空会社です。エアアジアグループの一員として日本の LCC 市場を開拓し、誰でも気軽に利用できる運賃と高品質なサービスを提供し、新しい市場を創りだすことを目指しています。

エアアジア、エアアジア X について

エアアジアはマレーシアに本社を置くアジア最大のローコストキャリアグループです。ASEAN 諸国、オーストラリアに広がる広範なネットワークで 150 を超える路線を運航しています。2002 年の就航開始以降の総搭乗人数は延べ 1 億 5,000 万人、設立当初わずか 2 機だった保有機材は現在ではグループ全体で 115 機となり、現在ではマレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、日本など各国に拠点を置いて安定した経営を続けています。さらに英スカイトラックス社が毎年実施している「ワールド・エアライン・アワード」で、4 年連続（2009-2012 年）ベスト・ローコスト・エアライン賞を受賞しました。エアアジアグループの長距離路線エアアジア X は、マレーシアから中国、オーストラリア、台湾、韓国、日本、ネパールへの路線を運航しています。

エアアジアウェブサイト: <http://www.airasia.com>

Facebook: <http://www.facebook.com/AirAsia.Japan>

Twitter: <http://twitter.com/airasiajp>

【本件に関するお問合せ先】

エアアジア・ジャパン株式会社 広報担当 今井・瀧口

TEL (直通) : 070-6636-1069 / 070-5015-6398 FAX: 0476-29-5541

メール : kumikoimai@airasia.com / chikakotakiguchi@airasia.com